家庭教育学級事業

自治体名

岩手県九戸村

学校数

小学校　5校　中学校　1校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当村は、内陸北部に位置しており、震災による直接の被害はなかったものの、宮城県での被災により2名の村民が犠牲となった。また、原発事故に伴う風評被害により、地域産業についての影響が見られた。　仮設住宅なし

＜取組名＞　もぐらんぴあ・まちなか水族館がやってくる（子ども園、保育園対象家庭教育学級）

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○	○			（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

「もぐらんぴあ・まちなか水族館　『出前水族館』」

（1）アイスブレイク「たのしくあそぼう」

担当　県北教育事務所　主任社会教育主事　浅　倉　　圭

（2）ワークショップ「うみのいきものとあそぼう」

講師　久慈市　もぐらんぴあ・まちなか水族館職員

（3）家庭教育学級（保護者対象）

①　今年度の教育振興運動推進方針について

②「検証と定着の２年」における具体的な取り組みについて

③　家庭での読書活動の推進について

説明　県北教育事務所　社会教育主事　小　室　好　司

（4）親子でまなぼう「うみのいきもののひみつ」

講師　久慈市　もぐらんぴあ・まちなか水族館　展示課　日　當　春　樹　氏

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

当村は内陸北部に位置するため、沿岸部に見られるような甚大な被害は発生しなかったものの、発災直後から支援物資の搬送や職員の派遣、火葬場の受け入れ等を行う中で、防災についての意識が強くなるとともに、沿岸被災地域支援についての関心が高まっている。

◇住民等からの要望・必要な取組

・当村の教育振興運動は小中学校の実践区のほかに、こども園・保育園と県立高校の実践区があり、県で推進している「全県共通課題」に対応していない実践区の支援が課題となっていた。

・隣接する久慈市をはじめとした沿岸市町村との交流を通じて、有効で持続的な被災地支援の方向性を探っていく必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・事業の企画、企業との連絡調整（教育事務所）

・村内こども園、保育園への周知、参加者の取りまとめ（教育委員会）

・保護者への周知、参加者の報告（こども園、保育園）

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・多くの保護者に「家庭での読書推進」や「親子の体験活動」に対する意識を高揚させるために、幼児向けのプログラムを設定し、できるだけ多くの親子が参加できるように事業を工夫した。

・被災地である沿岸の企業「もぐらんぴあ」の支援と内陸部の被災地交流を考慮し、双方に効果的な事業を組んだ。

成果・課題や今後の展望

◇取組による成果

・「もぐらんぴあ・まちなか水族館」の出前水族館を内陸部の幼児とその保護者を対象に実施したことにより、水に住む生き物をテーマに親子で触れ合ったり学びあったりし、親子のふれあいや学びあう大切さを意識させることができた。

・保護者を対象に「家庭での読書推進」について、県の取組を周知し、意識付けを図ることができた。

◇課題や今後の展望

・子どもが小さいうちは親子で一緒に参加する行事のなかに親子の体験活動を取り入れたり、子どもが主体的に活動する場や親同士が学びあう場を工夫したりすることによって、親の家庭教育に対する意識の高揚を図ることができる。

・地域の多くの大人が参加するための工夫が今後も必要である